

イヤホン開発などを手掛けるオーツェイド（高崎市八千代町、渡部嘉之社長）が、音域が広く高音質な音楽規格「ハイレゾ」用のイヤホンで世界市場への進出を目指している。電圧を加えると動いたり、変形したりする「圧電セラミックス」を扱う独自技術が強みで、渡部社長は「これからは圧電セラミックスを世界に発信したい」と強調する。

安価で世界へ

高音質を

ハイレゾ用イヤホン

オーツェイド（高崎）



「若い世代にこそ高音質なイヤホンを届きたい」と手ごろな価格のハイレゾイヤホンを提供する渡部社長

圧電セラミックスは比較的に安価で高音域の音を出すのに適しているものの、繊細な調整が必要となる。同社は圧電セラミックスをイヤホンに組み込む技術を開発し、多彩な音のバリエーションを生み出すことに成功した。

2017年にイヤホンブランド「intime（インティーム）」を立ち上げた。当時は多くのハイレゾ対応イヤホンは数万円台だったが、アンティームは5千円以下の価格帯で、安価ながら高音質と高い評価を受けた。

国内最大の専門店「e☆イヤホン」（大阪市）の年間ランキング（有線イヤホンの売上数）では19年に1位、20年も2位を獲得。同社広報は「名前も知ら

れていなかった中小企業が実力で人気を広げ

ている」と評価する。渡部社長は日立金属や太陽誘電で働き、圧電セラミックスに携わった。技術者としての腕を磨き、大企業にはできない製品作りをしたいと14年に退職し、16年にオーツェイドを設立した。

設立後、当時大学生だった長男が100円ショップで買ったイヤホンを使っている姿を見てオーディオの未来に危機感を持ち、「若い世代にこそ良い音色を届けたい」と考えイヤホン開発に取り組んだ。

ロックやオーケストラなどジャンルに適したイヤホンも、同社の技術を応用すれば作れるという。ユーザーの声を第一に受け止め、

好みの音を出すイヤホンを組み立てるワークショップも開催する。スマートフォン市場の拡大で世界的にイヤホン需要が伸びており、世界進出を視野に入れている。それぞれの地

域で好まれる音や価格の市場調査にも乗り出す。渡部社長は「海外出張をした先で利用者を見つけたら幸せ。やるからには本気でやりたい」と意気込んでい

同社は起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード2020」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）でハイレゾイヤホンのプランを発表し、大賞に輝いた。